

なることも知られています。展示ではこれらの違いについても解説します。



昼行性の蛾 イカリモンガ

第2に昆虫の色はどのように作られているのかを紹介します。プラチナコガネやモルフォチョウに見られる金属光沢はシャボン玉やDVDディスクの光沢と同様に、表面付近の微細な構造が光を干渉させることで生まれます。こういった仕組みで作られられた妖しい光沢を構造色といいます。



アカスジキンカメムシ

他にも構造色はタマムシやフン虫をはじめ、広く昆虫界に見られます。今回はそれらを標本と写真で紹介します。

また、最近明らかにされたアカトンボの成熟に従って起こる色の変化が、色素の変化によって起こる仕組みを紹介します。

第3の見所はいろいろな昆虫のデザインの紹介です。昆虫は地球上で最も繁栄しているグループです。種類だけでなく個体数も多いグループにみられる多様性にあふれたデザインの数々を、国産・外国産の貴重な標本や写真で紹介



ショウジョウトンボのオス

紹介します。

前頁の写真オオゴマダラの蛹には、金属光沢を持つ部分があります。キラキラとして目立ってしまうようですが、周囲を映し込んで紛れ込むことができます。

また、タテハチョウ科には翅の裏と表で隠れる色と目立つ色になるようなデザインを持つものも数多く見られます。

ハチとアブ、トラカミキリのように、系統的に大きく離れたグループにありながら、紛らわしいデザインを採用するものもあります。



キヌツヤミズクサハムシ



ハグロハバチ幼虫

隠れるための色や柄・アピールするための色・動くことで立ち上がってくる色。個性的な色やデザインが、その昆虫の生活の中でどんな意味を持つのか？展示を通じて思いを馳せていただきたいと思います。

(そねざき たけし・担当課長)